

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)長嶺南PJ A棟 新築工事	階数	地上2F	
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南3丁目217	構造	S造	
用途地域	準住居地域、第2種中高層住居専用	平均居住人員	140 人	
気候区分	7地域	年間使用時間	4,380 時間/年	
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年7月5日	
敷地面積	3,565 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社	
建築面積	1,368 m ²	確認日	2021年7月5日	
延床面積	2,625 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★

★★★★★

★★★★

★★★

★★

★

環境品質 Q

環境負荷 L

100

50

0

0

50

100

3.0

1.5

BEE=1.0

38

0.6

56

S

A

B⁺

B⁻

C

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

☆☆☆☆

☆☆☆

☆☆

☆

BEE = 0.6

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

100%

2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価



61

重点事項1 温室効果ガス排出量削減の推進

56.2

重点事項2 安全安心で暮らしやすい社会の実現

62.5

重点事項3 県の地域資源の有効活用と保全

60.0

重点事項4 循環型社会の実現

72.0

熊本県重点評価基準

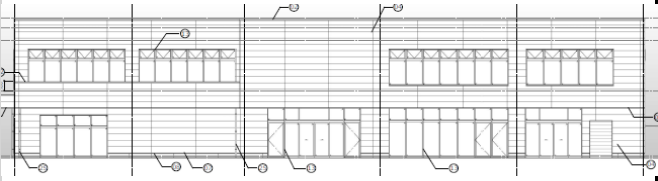
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

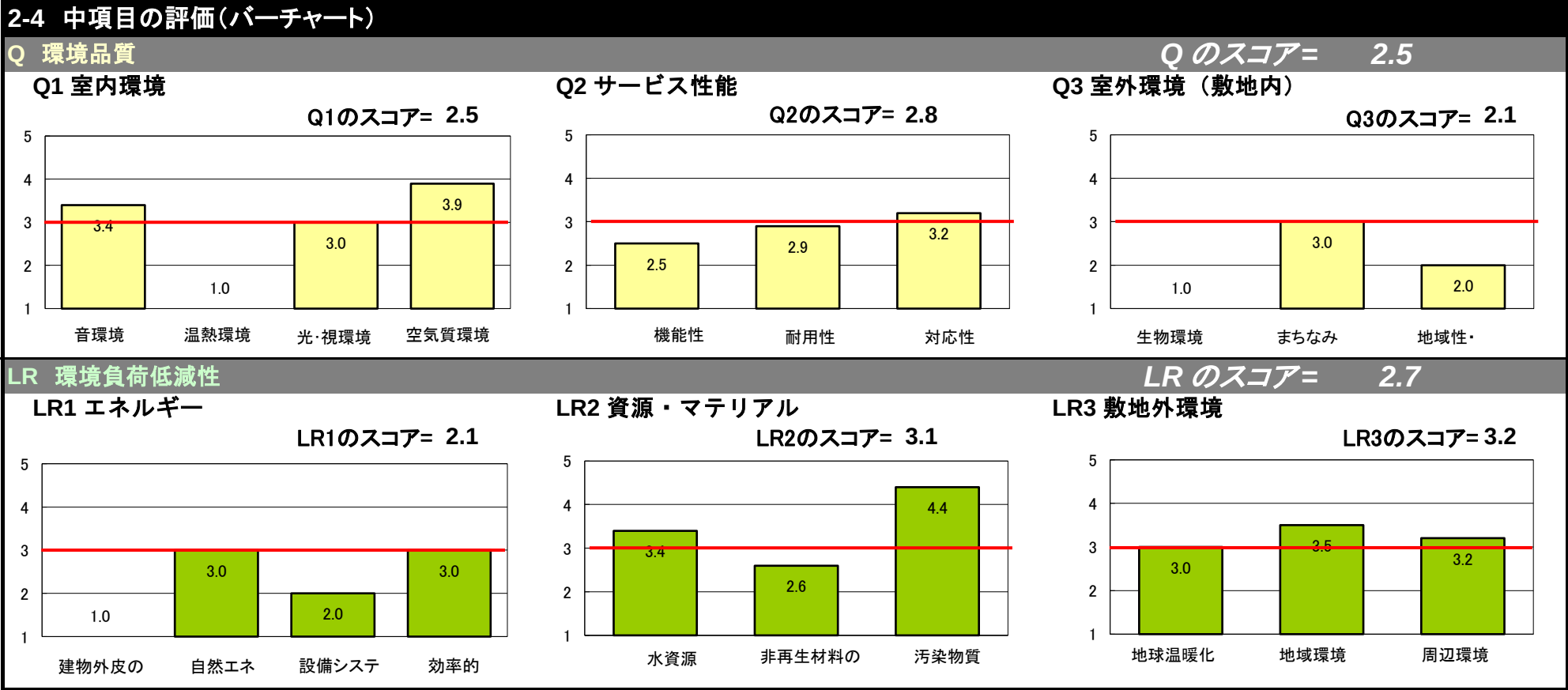
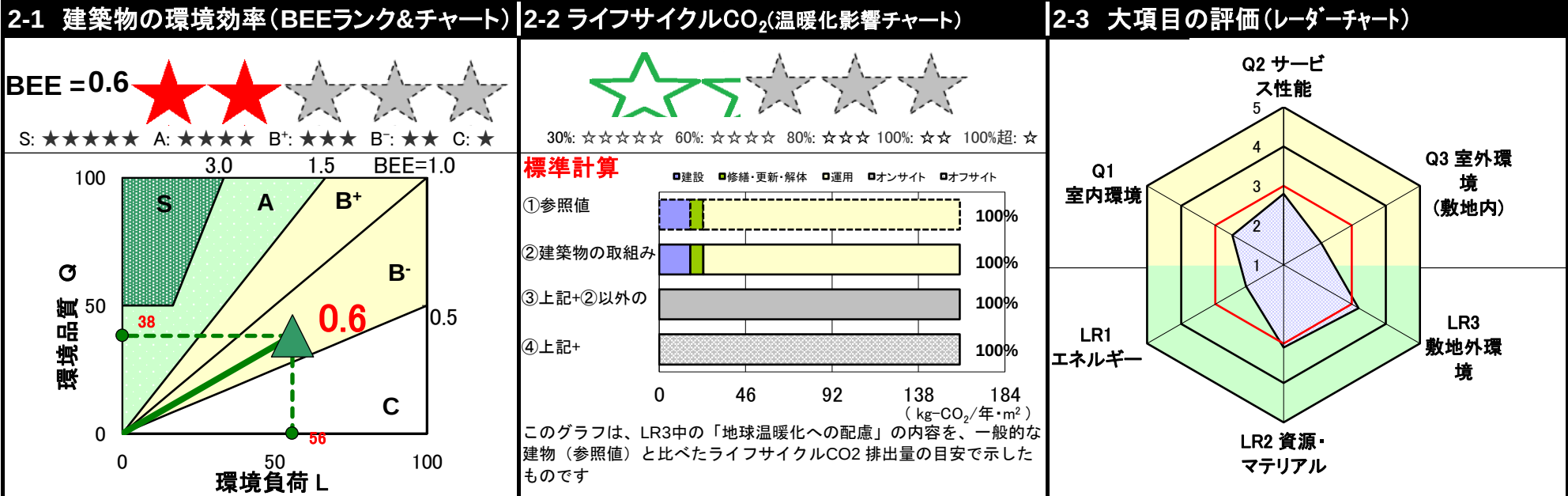
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)長嶺南PJ A棟 新築工事	階数		
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南3丁目2178	地上2F		
用途地域	準住居地域、第2種中高層住居専用	構造		
地域区分	7地域	平均居住人員		
建物用途	物販店	年間使用時間		
竣工年	2022年4月 予定	評価の段階		
敷地面積	3,565 m ²	評価の実施日		
建築面積	1,368 m ²	作成者		
延床面積	2,625 m ²	確認日	大和ハウス工業株式会社	
		確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)長嶺南PJ A棟 新築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.5	
Q1 室内環境					0.40		-	2.5	
1 音環境				3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				5.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		T-2		5.0	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				1.0	0.35	-	-	1.0	
2.1 室温制御				1.0	1.00	-	-		
1 室温				-	-	-	-		
2 外皮性能				1.0	1.00	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				-	-	-	-		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0	
3.1 昼光利用				3.0	1.00	-	-		
1 昼光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	1.00	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				-	-	-	-		
4 空気質環境				3.9	0.25	-	-	3.9	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8	
1 機能性				2.5	0.40	-	-	2.5	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				2.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			階高平均:4.15m 比率:0.14	4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	5.0		0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	4.0		0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				2.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0		0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	2.0	0.20	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-			
5	設備機器の更新性	1.0	0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	2.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 1.00	2.0	0.50	-	-	2.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-		-	-	-		
4.2	運用管理体制	3.0		1.00	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-		-	-	-		
4.2	運用管理体制	-		-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			ー	2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				躯体と仕上げ材が容易に分別可(LGS下地)	4.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.4	0.20	-	-	4.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			グラスウール	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			5.0	1.00	-	-	
3	冷媒			-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	
1 地球温暖化への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮				3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			ばい煙発生施設なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車スペース・駐車施設の確保、導入路の配慮	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音	3.0		1.00	-	-		
2	振動	-		-	-	-		
3	悪臭	-		-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-		-	-	-		
2	砂塵の抑制	1.0		-	-	-		
3	日照障害の抑制	3.0		1.00	-	-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たす		5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

道路面からの圧迫感を避けるため、敷地の奥（北側）に建物を配置する計画とした。
また、周囲との景観の調和や街並みへのうるおいを生み出すため、敷地内には緑地を配置する計画とした。

Q1 室内環境

- ・ F☆☆☆☆ 建材を使用。
- ・ 全館禁煙とし、施設内の空気質環境に配慮。

Q2 サービス性能

- ・ 階高にゆとりをもたせ、建物自由度をたかめた。
- ・ 設備系統はメンテナンスを考慮した計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

・ 建物外壁部にはグラスウールを充填し、建物断熱性能を向上させ、夏季・冬季問わず、空調の負荷を低減させる仕様とした。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 断熱材はすべてノンフロン。

LR3 敷地外環境

- ・ 適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、出入口附近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)長嶺南PJ A棟 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	61
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				56.2	0.40	22.48
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数